

HOKKAIDOで雪活ワーケーション：北教大が提案する冬のアウトドア・ライフ

①事業の概要と取り組む課題

本学は、アウトドア活動や地域活性化の取り組みを通じて、北海道の豊富な雪を活かしたプログラム開発に注力してきた。また、アウトドア・ライフコースでは、アウトドアスポーツを自然の中で学ぶ総合的な活動と捉え、教育的観点から生涯学習の一環として位置づけ、自然との直接的な体験を通じて人間性や健康増進に寄与し、野外教育の三大学習観点に基づいた活動を重視している。本事業では、岩見沢市をフィールドとし、これまでの教育実践や地域連携事業の経験を生かして、地域の特色を活かしたアウトドアスポーツプログラムの開発と観光誘客の促進し、その成果を測定調査や満足度調査を通じて実証することで、新たなアウトドアスポーツツーリズムのモデルを提示することを目指す。

【岩見沢市の課題】

1. 豪雪地帯である地域の雪に対する肯定的なイメージの不足
2. アウトドアスポーツのポテンシャルの未発（ニセコ、富良野のようなスノーリゾートは無い）
3. 観光誘客の不足

バックカントリースキーなどのハイレベルなコンテンツではなく、「雪や氷」そのものを体験するための、**初心者・初級者向けで、豪雪地帯を体感でき、心身ともに豊かになれるプログラムを開発**

②到達点と検証方法

定量的調査（モニター参加前後でアンケート調査を実施）

①地域への関心度の向上（**向上の割合80%以上**）

評価方法: 参加前後の関心度の平均値を比較し、向上の程度を確認する。

②コンテンツの満足度調査（**平均値4以上**）

分析方法: 多変量解析を使用して、各コンテンツが総合的な満足度に与える影響を分析。

③地域性をともなうスノースポーツの認知度向上（**向上の割合80%以上**）

評価方法: 事前と事後の認知度の平均値を比較し、向上の程度を確認する。

④主観的幸福感尺度Subjective Happiness Scaleの向上（**参加者数の80%が向上**）

モニター参加前後で、参加者のSHS（7段階評価）が向上したかどうかを評価する。

定性的調査（参加者へのインタビュー、アンケート追加分析）

①インタビュー調査

質問項目: 過去の体験、情報収集ツール、体験したコンテンツの魅力および課題

分析方法: 収集した情報から、Price、Place、Product、Promotionの視点でマーケティング的課題を抽出する。

②追加の分析（定量的調査のアンケート調査の自由記述回答の分析）

方法: 自由記述について、理由や意見を整理し、傾向やパターンを抽出する。

分析方法: 回答の共通点や異なる意見を比較し、定量的調査結果と照らし合わせることで、より深い理解を得る。

③コンディショニングの視点

1. 身体健康の向上
スノーシューやスノーハイク、そり遊び、雪板等の初心者向けアクティビティ
2. メンタルヘルスの改善
雪原の森林浴
3. 生活習慣病の予防
豪雪地帯のライフスタイルの象徴的なものである「除雪」
4. 社会的交流とコミュニティの強化
本学学生ならびに地域住民と共通の活動を通じた交流
5. 教育的側面とスキルの向上
アウトドアスポーツを体験

心肺機能の強化、ストレスの軽減、運動の習慣化、孤立感の減少自己効力感や自己肯定感の向上、運動習慣や健康維持意識の醸成

⑤実施体制

1. 専門性の高い教員陣

大学教員による、幅広い知識と経験を活かした、プログラムの開発、実施、検証まで、専門性の高い実施能力。

2. 地域との強固な連携

岩見沢市との相互協力協定や地域の商工会議所、地域の団体との連携が20年以上にわたって構築済。地域のニーズや課題の把握、地域密着型プログラムの開発・実施が可能。

3. 大学間連携と産学連携の強化

北海道全体にネットワークを有するほか、北海道森林管理局との連携体制、COIやSIPなどのプログラムを通じ、他大学や産業界との連携も強化されており、様々な視点やリソースを活用したプログラムを実施体制が構築済。東京学芸大学との連携によるモニター調査の実施体制も構築済

4. 専門部署の設置

地域連携や広報活動を担当する専門部署が存在し、地域とのコミュニケーションや連携が円滑。

④具体性・計画性

1. 主な対象・ターゲット

第1層 中年層（35～64歳）の就業者（中間所得層）
社会人

志向・消費行動の特徴把握

第2層 若年層（15～34歳）の若者世代・プレ社会人
将来的な消費ニーズを調査

個人旅行、家族旅行を想定



モニターツアーの参加者設定

第1層 東京学芸大学・武蔵野美術大学の教職員

第2層 東京学芸大学・武蔵野美術大学の大学生

2. 実施の時期・場所

- ・厳冬期（1月～2月後半）
- ・土日を含んだ3泊4日～（平日2日と休日2日）
- ・岩見沢市内の合宿施設を活用

3. 実施の内容

「生活（ライフスタイル）」と「遊び（アクティビティ）」の提供

- ・ライフスタイル
除雪作業、屋根の雪下ろし、吹雪、スタックした車の救出作業、雪中野菜の収穫
- ・アクティビティプログラム
スノーシュー（西洋かんじき）、スノーハイク
アイスクライミング、そりや雪板
サウナ

- ・参加者の各種健康
- ・ライフスタイルの見直し
- ・教育的観点
この3つの観点について有益であることを検証

⑥事業の将来性

- ◆・事業終了後は、本学の教員が関わるNPO法人（特定非営利活動法人北海道教育大芸術・スポーツ文化研究所）による事業化を行う。
- ◆・国内の取り組みから横展開を行い、訪日外国人観光客のうち、ニセコ、富良野の路線とは差別化をし、「アクティビティがない外国人」へ訴求できる、北海道を代表する新しいウィンタースポーツツーリズムコンテンツへと発展させ、社会実装させていくことを想定。
- ◆ワーケーションとしての実装を想定し、今後は市内教育機関（市教委、学校等）と連携し、子どもの学習や成長をサポートする仕組みやリソースの整備に継続的に取り組む。